

産総研コンソーシアム

「人」が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム

HCMIconso : Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation

## —2024年度活動報告及び2025年度活動計画—

2025年6月11日（木）

運営委員長 谷川 民生

※ 後日ダイジェスト版をHPに「活動紹介」としてアップしますのでご確認ください。

<https://www.hcmi.cons.aist.go.jp/document/introduction.pdf>

# 目次

1. 設立経緯
2. 活動の狙い
3. 活動目標
4. 主な活動と体制
5. 2024年度活動報告
6. 2025年度活動計画
  - (1) 全体活動
  - (2) 部会活動他

# 1. 設立経緯

## 【2016-2017年度】

産業競争力懇談会（COCON）にて産学官が集まり『「人」が主役となる新たなものづくり』プロジェクトを推進。実現課題を検討し、実現シナリオを提言にまとめた。

<http://www.cocn.jp/report/theme97-L.pdf>

## 【2018年度】

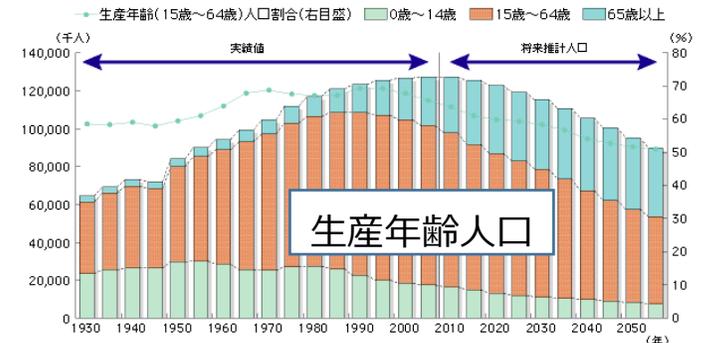
産総研サイバーフィジカルシステム研究棟に提言実現の産学官協働プラットフォームを形成すべく、コンソーシアム設立を準備。

## 【2019年4月10日】 コンソーシアム設立

# 2. 活動の狙い

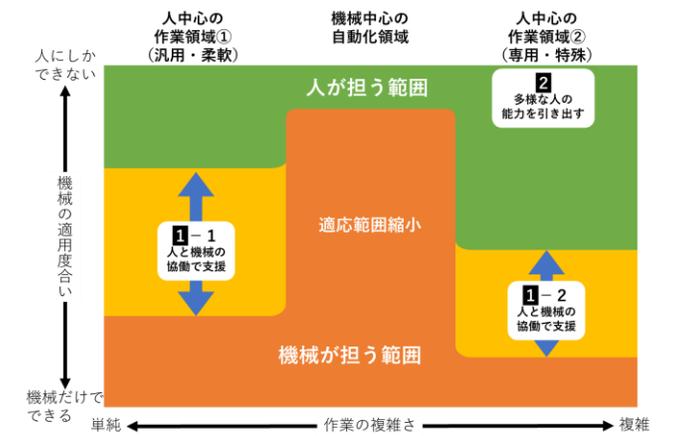
## ■ものづくりの重点課題■

### (1) 生産年齢人口の減少



我が国の生産年齢人口の推移

### (2) 市場のニーズ多様化とグローバル化の加速



ものづくりの人と機械の役割構成

+ 社会環境の大きな変化

### (3) 自然災害・感染症リスク拡大



- ★ 生産年齢人口激減⇒世界へ人口偏在・単独世帯増
- ★ 深刻な人手不足・生産性の低下
- ★ 消費者活動の縮小、消費重心が大きく変動 ⇒マーケットの多様化・不確実化

- ★ 機械中心の自動化は投資効果が得にくい
- ★ 変種変量への転換期 (生産は複雑化)

- ★ 生活様式・働き方の大きな変化
- ★ 生活・事業継続課題対策が急務

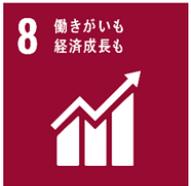
# 2. 活動の狙い

【2050年に向けての狙い】  
beyond Society 5.0  
人が主役となる循環経済社会のものづくり

日本型の循環経済社会の新たな産業モデル構築

【2030年に向けての狙い】

## Society 5.0 人が主役となるものづくり



世界に先立ち SDGs目標8 達成モデル構築  
「働きがいも 経済成長も」



### 自分らしい生き方(働き方) と産業の持続的発展の両立

- 誰もが無理なく働ける社会
- 多様性を認め、全員参加の社会
- 誰もが潜在能力を発揮し、自己の理想を実現できる社会

**働く環境の革新**  
**時間・空間の制約が少ない働く環境**  
 一人と機械の新たな協調技術—  
 誰もが自分らしく、住みたいところに住み  
 働きたいところで働く

**新たな働く環境に対応したマネジメントの革新**  
**労働の質 (QoW: Quality of Working) に着目**  
 —QoWマルチタレントマネジメント—  
 多様な人材が能力を発揮しやすく、  
 「生涯能力向上の期待」を持って働く



# 3. 活動目標（2030年に向けて）

## 「人」が主役となる新たなものづくり

### 一人と機械の新たな協働システム基盤構築

### 「Society 5.0時代のものづくり SDGs目標8達成モデル」

#### ＜働く環境の革新：新たな協働形態＞

#### 協調型協働（人と機械が学習し成長を続ける）

- ・ 役割は柔軟に変更可能（機械も人の行動推定で連動）
- ・ 空間も、相互コミュニケーションで協調して共有
- ・ 人が主導、作業者の状態に合わせて機械と協調作業

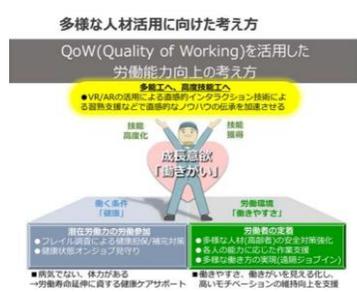
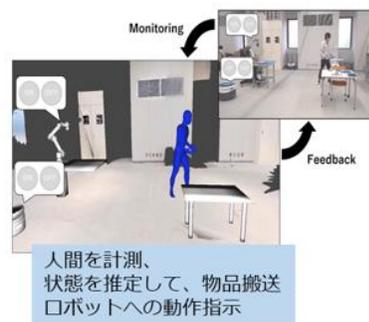
#### 遠隔協調型協働（ものづくりIoA）

- ・ 役割は柔軟に変更可能（機械も人の行動推定で連動）
- ・ 空間も協調して共有でき、遠隔からも協調作業可能
- ・ 人・機械及び遠隔の人・機械と協調作業

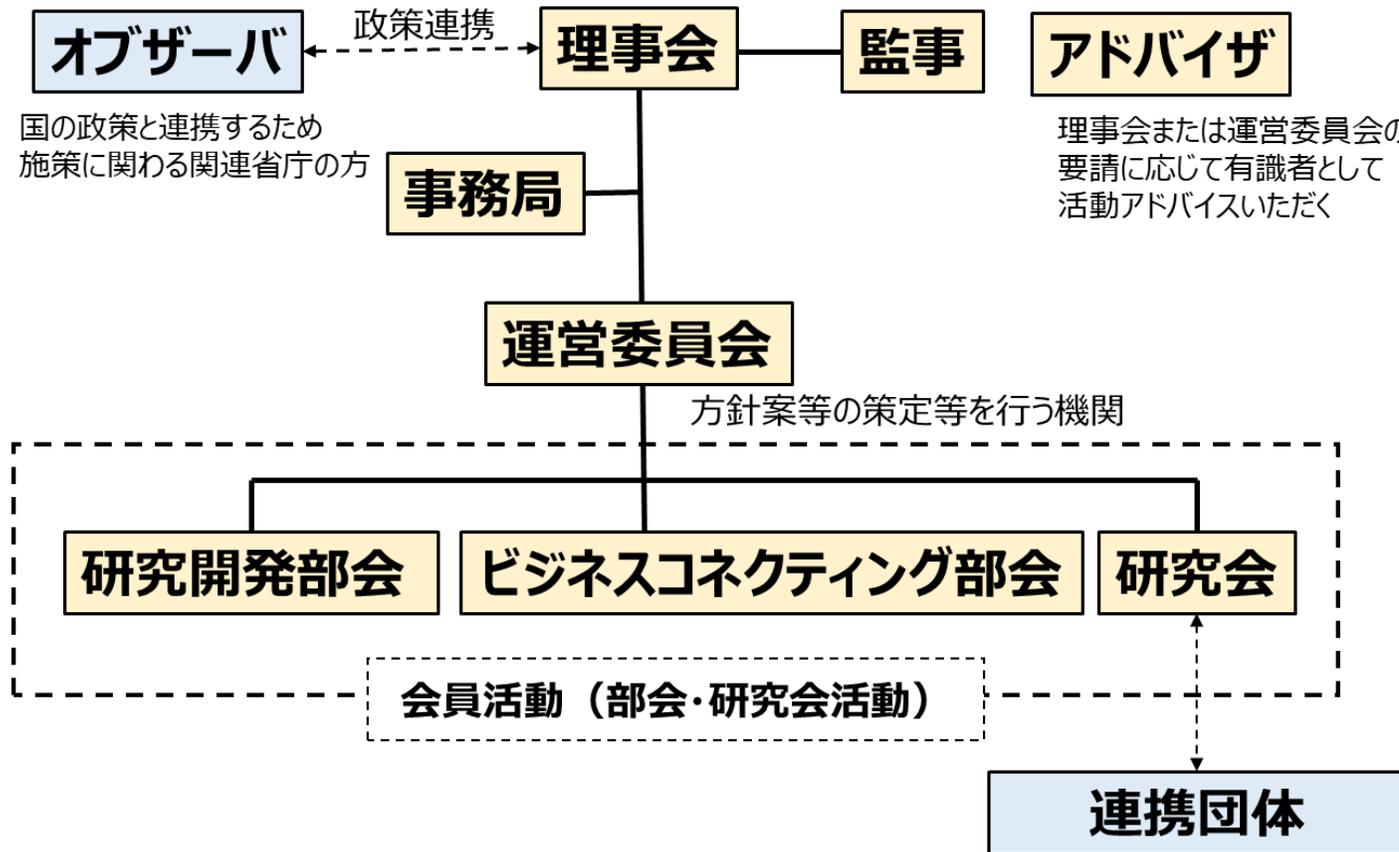
#### ＜新たな働く環境に適したマネージメント革新＞

#### QoW (Quality of Working) マルチタレントマネージメント

- ・ 健康/働きやすさ/生涯能力向上を期待できる働きがいの視点で、Well Beingと積極的な労働参加を促すマネージメント
- ・ 労働寿命延伸、就労率向上、労働生産性向上をめざす。



# 4. 主な活動と体制 ■コンソーシアム組織体制■



## 主な活動と体制

### 研究開発部会

1. 基盤技術確立推進  
先導研究、実証支援の推進
2. 収集データの管理・産業利用促進  
データ分析、意味解析⇒利活用支援

### ビジネスコネクティング部会

3. 社会実装、実事業展開促進  
開発成果の各社事業との融合施策推進

### 研究会

4. 会員及び連携団体の協働の場創出

# 5. 2024年度活動報告

# 2024年度活動報告 イベントスケジュール

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月		
理事会 (+参加要イベント)	理事会 5/21	総会 6/19	▲ ▲ 10/8-10 建設ロボットシンポジウム 10/15-18 CEATEC	理事会 (12/10) 新春セミナー 賀詞交換会 (1月21日)		
運営委員会	運営委員会 (5/9)	運営委員会 (9/13)	運営委員会 (11/27)	運営委員会 (2/20)		
RS部会 偶数月 第3水曜日	RS部会 4/17	RS部会 6/19	RS部会 8/21	RS部会 10/23	RS部会 12/18	RS部会 2/19
BC部会 奇数月 第3水曜日	BC部会 5/15	BC部会 7/17	BC部会 9/18	BC部会 11/20	BC部会 1/15	BC部会 3/19
		プライベート セミナー	← 未実施	カリキュラム・セミナー実施 →		
研究会 (運営委員会直轄)	随時活動					

# 2024年度活動報告（重点施策）

全体重点施策（総会答申）	2024年度 活動実績
① 新ロードマップ策定 ロードマップ研究会連携)	会員意見交換を経、改定案作成 ⇒アドバイザーボード（3/5）を経て新ロードマップ及び具体的なアクションプランの検討に移行（2025年度計画参照）
② DX（RX）推進人材育成講座推進 （BC部会連携 研修事業化準備）	NEDO、経産省からカリキュラム高評価だけでなく <b>新キャリア定義（RX推進人材）につながった。</b> （P10参照） ⇒ <b>継続審議通過</b> 来年度は研修事業化計画の充実要
③ 地域拠点活動活発化 （RS部会/BC部会連携）	拠点の自主運営を最初から想定せず交流拠点の段階からスタートし、 <b>地域特性を把握することから推進することに変更。</b> 各地域経済連合会との連携の糸口が見えてきた
④ 活動PR強化（CEATEC他） （RS部会/BC部会連携）	CEATEC展示、セミナーともに好評（P11参照） 来年度継続の希望多数寄せられ、2025年度出展予定
⑤ QoW標準化/仕組化推進 （RS部会連携）	<b>国際標準ISO25554 制定</b> （産総研主導）（P12、13参照） QoW評価ポイント策定⇒フォーラム標準・仕組化の具体化加速要
運営委員会直轄セミナー 新春セミナーの運営	セミナー企画：『ものづくりにおける生成AIとデータ利活用』⇒ホットなニーズに合致した質の高いセミナーと好評（80%以上有益とのアンケート結果） デモ展示：WG間連携も進んでいる点高評価（P14,15参照）

# 重点施策②報告 NEDO RX推進人材育成講座の狙い

**本講座の狙い：主にユーザ企業の『RX推進人材』（※）の育成することでNEDOと合意**  
**（※）『RX推進人材』とは：様々な課題に直面する中、その課題解決に向けた生産戦略をICT、AI、ロボットを活用した戦術に転換し、具現化を牽引する人材。**

下記2024年度までに開発予定カリキュラムはすべて開発完了し、講座開催すべての講座で有益性90%以上の回答を得た。（2023年度開発講座は、100%）であり、NEDO技術委員からも非常に好評をいただいた

	初級	中級	上級	D3中級	D3上級
DX化のレベル	Industry3.0	Industry4.0		Industry5.0/Society5.0	Beyond Society5.0
I.生産工学 (座学)	I-1 設計学 / I-2 生産システム概論 I-3 ロボティクス論概論	I-4 IoTシステム構築論		I-5 D3型生産システム基礎概論	I-6 D3型生産システム構築論
II.導入評価手法・事例研究	II-1 SMKL (スマート製造版)	II-2 SMKL (人・機械協調型協働版)			
III.データ連携PF構築法	III-1 データ連携PF構築				
IV.協働ロボットシステム技術		IV-1 ロボットへの技能転写技術	IV-2 人とロボットの協調技術 / IV-3 遠隔協調技術		
V.AI、分析技術		V-1 Edge AI V-2 人のモデル化	V-3 行動のモデル化	V-4 知の抽出技術	V-5 経験の生産への活用
VI.DX事例研究			VI-1 ラーニングファクトリー型DX事例研究 VI-2 遠隔協調型DX事例研究		

2023年講座試行開始

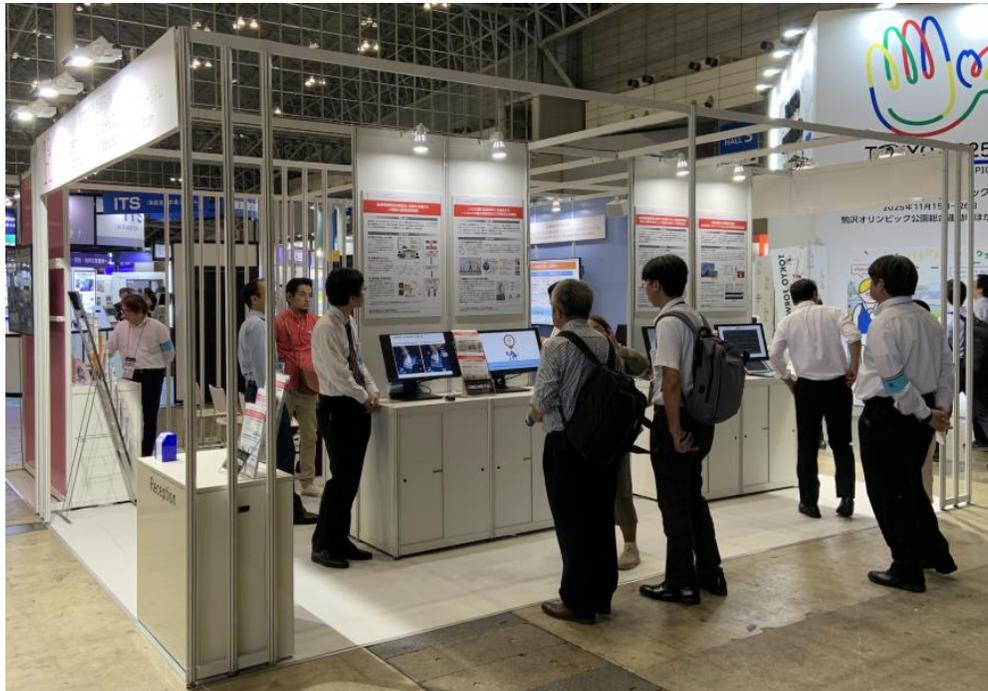
2024年講座試行開始

2025年講座試行開始



# 重点施策④報告 CEATEC展示 講演他

- 多くの参加者、講演聴講者を得、提案施策への多くの意見をいただき、その後の施策へ反映。
- 会員の活動理解が進むよい機会となった。会員資格をアップグレードいただくなどにつながった。



**HCMI コンソーシアム** 2024年10月15日 (火) 13:30 ~ 15:30  
 「人が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム」 幕張メッセ 国際会議場 301会議室  
 Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation

## 「働きがいも 経済成長も」人が主役となるものづくりに向けて

HCMI運営委員長 (産総研 ICPS研究センター 研究センター長) 谷川 民生  
 『HCMIコンソーシアムが目指す姿とその実現に向けたロードマップ紹介』

HCMI 理事 (京都大学 理事・副学長) 榎木 哲夫  
 『Society5.0時代の人が主役となるものづくり 一人と機械の共創へ』

HCMI 理事 (東京大学 大学院 工学系研究科 教授) 梅田 靖  
 『beyond Society5.0 人が主役となる循環経済の実現』

**HCMI 会長** 関口 智嗣 (産総研フェロー/AISTソリューションズCTO)

**登壇者**

HCMI副会長 岡 徹 (三菱電機 上席執行役員 開発本部長)

HCMI副会長 松村 篤樹 (日鉄ソリューションズ 取締役専務執行役員)

**ご来賓**

経済産業省  
 商務情報政策局  
 情報産業課  
 情報処理基盤産業室 室長  
 渡辺 琢也 様

**HCMI コンソーシアム** 2024年10月16日 (水) 14:30 ~ 15:10  
 「人が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム」 幕張メッセ パートナースパーク内トークステージ会場  
 Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation

## 一人の活躍を経済成長にー QoW (Quality of Working)マルチタレントマネジメント手法確立と社会実装への取組み

基調講演：産総研 情報・人間工学領域 副領域長 佐藤 洋  
 『ISO WellbeingフレームワークにQoW指標を導入し経済成長を促進』

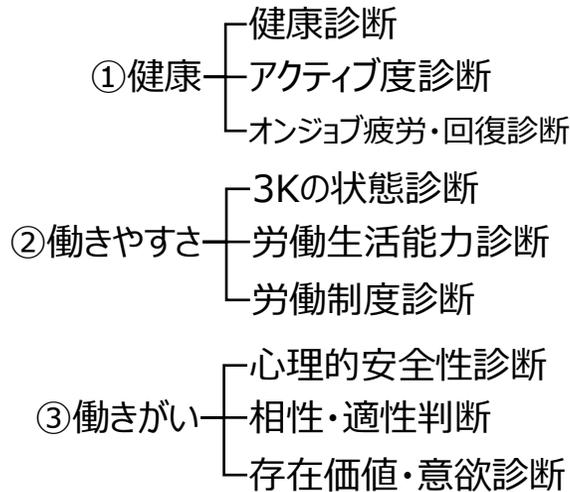
QoWの取組みご紹介 産総研HCMIコンソーシアム 事務局長 岩井 匡代  
 『多様な人材が活躍できる「QoW」マルチタレントマネジメント手法確立と社会実装に向けた取組み紹介』

事例紹介1 株式会社リトルソフトウェア 代表取締役CEO 川原 伊織里  
 『チームマネジメントサービスの成功事例とサービス紹介』  
 ー脳タイプの組み合わせから最強かつ調和のとれたチーム(組織)を作るー

事例紹介2 旭化成株式会社 生産技術本部 産機システム技術部 エキスパート 松下 雄史  
 『3K作業定量化による生産現場の改善』

## QoW指標の策定

- QoWの診断ポイントに対し測定可能な指標を策定



測定可能な  
指標  
(策定中)



## 標準化に向けた取り組み

- ISOマネジメントフレームワーク国際標準との連携
- HCMIコンソーシアムでのフォーラム標準の策定

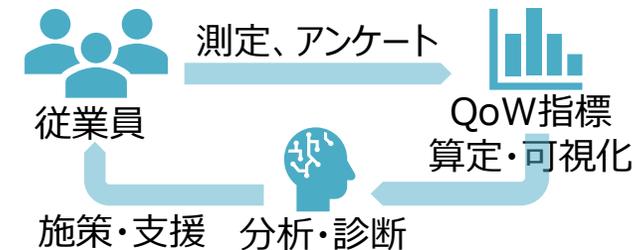
## QoW管理レベルのアセスメント・ 認定の枠組みの検討

- QoW指標の到達度に応じた組織のQoW管理レベルを評価・認定する枠組みの検討

レベルd 改善		★(目標)		
レベルc 分析		●(現状)	★(目標)	
レベルb 可視化		部署A	●(現状)	
レベルa データ収集			部署B	
	レベル1	レベル2	レベル3	...

## QoW指標の測定方法・システム化検討 事例づくり

- 取り組み事例
  - 3K指数の算定 (旭化成)
  - 脳タイプ判定による相性・適性判断 (リトルソフトウェア)
  - オンジョブデータ収集・解析によるQoW指標向上支援システム (産総研)



- 国際標準 ISO TC314 でマネジメントフレームワークを標準化する ⇒2024年 ISO 25554 として制定

### この標準の特徴

QoWと定義

1. ウェルビーイングとは何か、という定義は一切しない
2. 個人と集団のウェルビーイングをリーダーが自分で決める
3. 持続的にウェルビーイングを向上させる仕組みを提示し宣言する



### デファクト標準の方針

- 同時にウェルビーイングの定義を拡張してQoWをベースにしたデファクト標準化を推進  
まずは HCMICONSORSIAM内でフォーラム標準化に向けた活動推進して国内展開を進める
- ISO 25554に準拠した事例として、QoWのしくみを認定を受ける

# 新春セミナー報告 「ものづくりにおける生成AIとデータ利活用」

報告事項

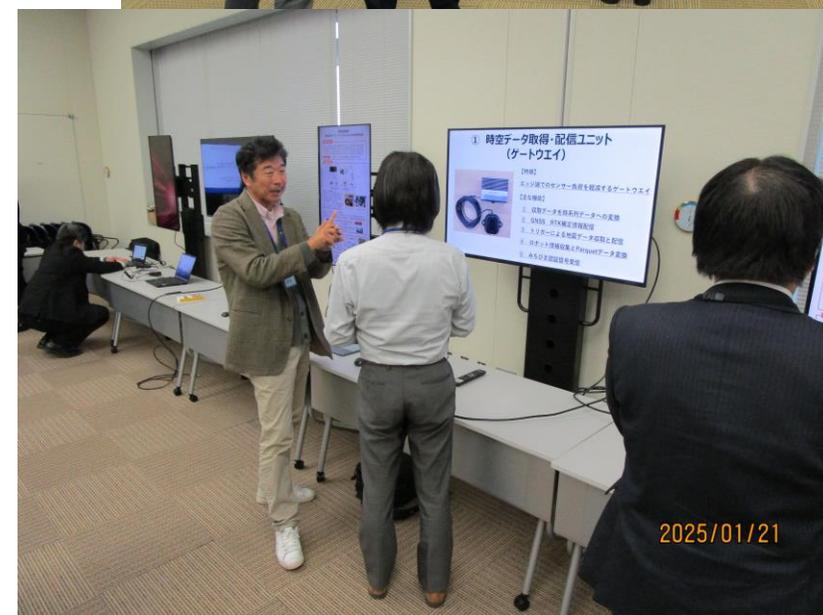
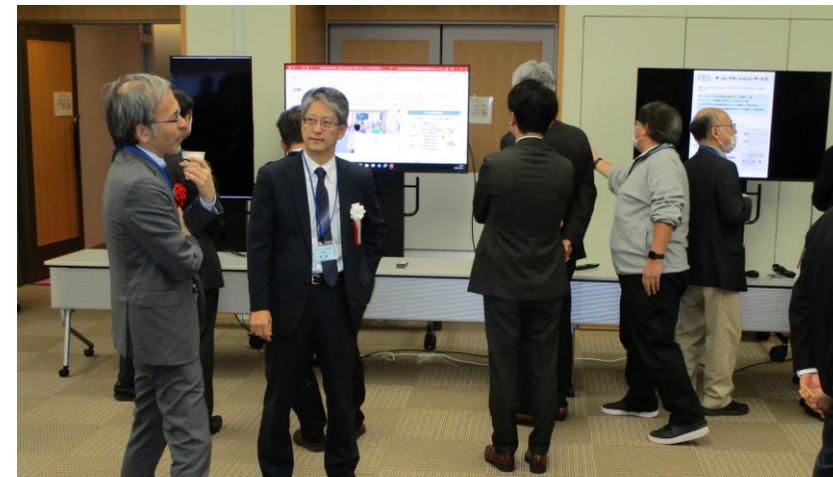
■ 来賓に、経済産業省から、ロボット政策室 石曾根室長、情報政策課 佐宗企画官、NEDOからAI・ロボット部高田部長をお迎えして、上記のテーマで開催。

■ セミナーには、NII 黒橋所長、産総研 佐藤主席研究員、東大 西野教授に講演をいただき

80%以上の方から非常に有益であったとのアンケート結果



■ 産総研臨海会場では新春セミナーの後、意見交換会及び研究開発部会のWG展示を実施。会場から具体的な活動成果がわかる。年々、WG同士の連携も進んでいる様子が見える点評価できるとの声をいただいた。



# 6. 2025年度活動計画

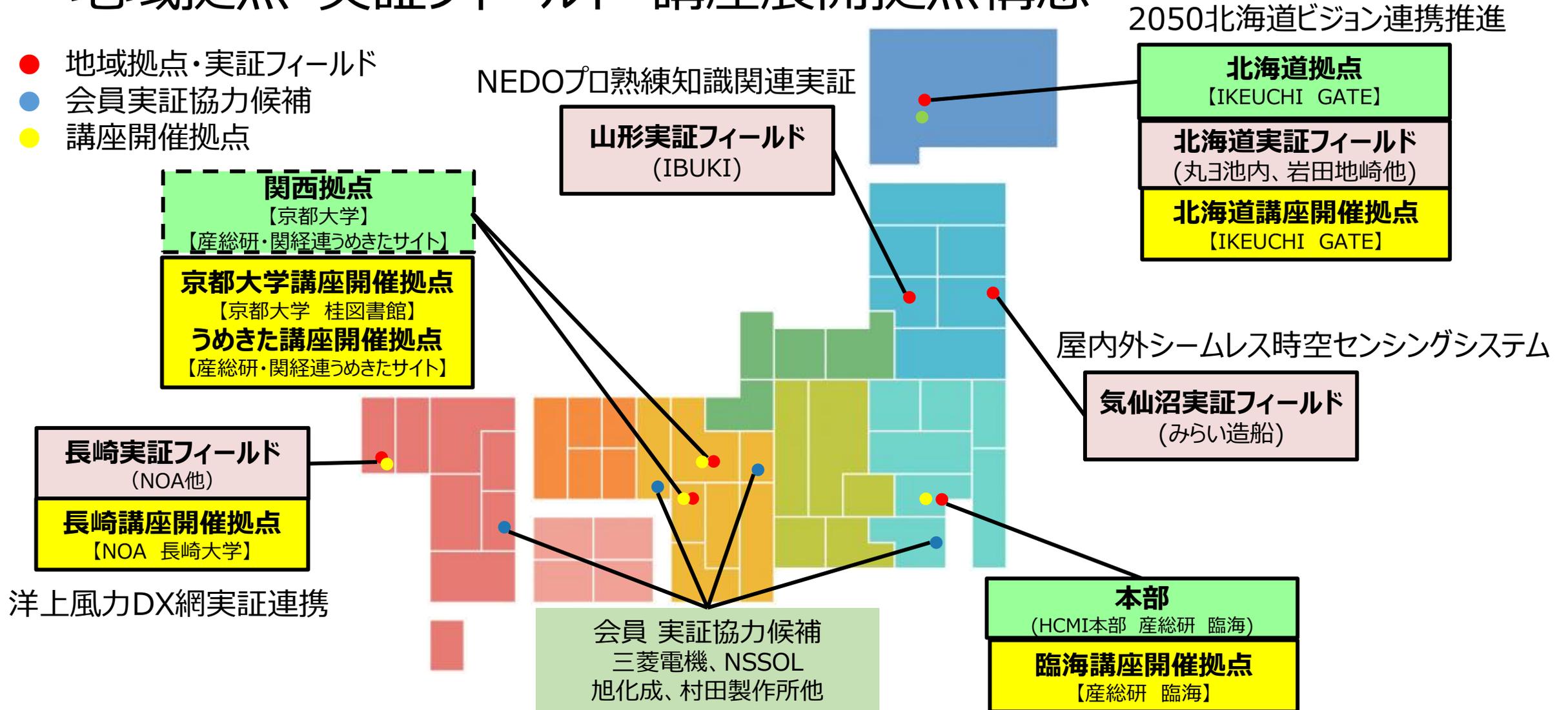
## (1) 全体活動計画

# 2025年度活動計画 イベントスケジュール

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月		
<b>理事会</b> (+参加要イベント)	理事会 5/13	▲ 8月ロードマップアドバイザリーボード会議 ▲	▲ 10/14-17 CEATEC	理事会 (12/9) 新春セミナー 賀詞交換会 (1月20日)		
	総会 6/11					
<b>運営委員会</b>	運営委員会 (4/18)	運営委員会 (8/19)	運営委員会 (11/20)	運営委員会 (3/2)		
<b>RS部会</b> 偶数月第3水曜日 15-17時	RS部会 4/16	RS部会 6/18	RS部会 8/20	RS部会 10/22 <small>CEATECのため一週間後の日程に変更</small>	RS部会 12/17	RS部会 2/18
<b>QoW統合WG</b> 偶数月第2金曜 15-17時	第12回 4/11	第13回 6/13	第14回 8/22 <small>お盆のため一周遅れ</small>	第15回 10/10	第16回 12/12	第17回 2/13
<b>BC部会</b> 奇数月第3水曜日 15-17時	BC部会 5/21	BC部会 7/16	BC部会 9/17	BC部会 11/19	BC部会 1/28 <small>新春セミナー直後のため一週間後の日程に変更</small>	BC部会 3/18
	2025年度 プライベートセミナー カリキュラム・セミナー実施					

# 参考：2025年度に向けた 地域拠点・実証フィールド・講座展開拠点構想

- 地域拠点・実証フィールド
- 会員実証協力候補
- 講座開催拠点



# 2025年度活動計画（重点施策）

全体重点施策（総会答申）		活動計画	
①	新ロードマップ策定 （ロードマップ研究会連携）	平岡 部会長	具体的なアクションプランの検討
②	DX（RX）推進人材育成講座推進 （BC部会連携 研修事業化準備）	澤田 委員	NEDO RX推進人材育成講座の開発完遂 <b>研修事業化計画の充実 RX推進人材 事例づくり検討</b>
③	QoW標準化/仕組化推進 （RS部会連携）	事務局長	QoWフォーラム標準・仕組化を推進 <b>事例づくり⇒広報戦略（CEATEC,メディア）展開</b>
	運営委員会直轄セミナー 新春セミナーの運営	事務局長	2025年度新春セミナーの実現
	CEATEC2025 出展 （RS部会、BC部会連携）	平岡部会長 下田部会長	2025年度出展し、コンソ活動PR強化

# 2025年度活動計画（①ロードマップ策定）

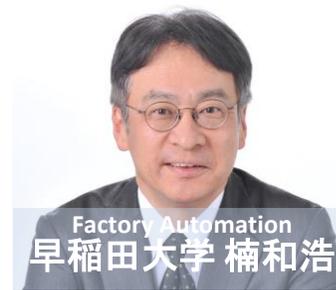
3月5日アドバイザリーボード会議の結果を踏まえて下記を推進し、第二版ロードマップを策定（運営委員会、ロードマップ検討WG連携にて推進）

- （1）2030年に向けて  
2030年の目的について「人が主役」の趣旨を明確にするし、下記の検討結果を反映してロードマップをリバイスする。
  - ・QoWへのメカニズムデザインと脳波測定連携導入 社会実装における制度設計
  - ・LLM等の破壊的技術による影響をアクションプランに反映
- （2）2050年に向けて 2050年のあるべき姿の再設計と2040年までのフェーズ設計を行う社会価値変化の調査（**若手人材の意見を聞く**）し2050年のあるべき姿の見直しを実施するとともにCEの社会実装の加速に向け下記を検討する
  - ・データインセンティブ設計及びCEの社会実装に向けた設計革新を議論
  - ・消費社会の価値創造と人が主役の意味の具体化、社会健康の在り方を議論

# 参考 ロードマップ検討状況（アドバイザー）

## 第2期アドバイザー（2025年3月時点）

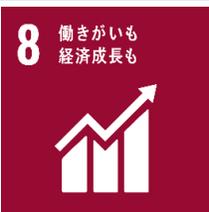
（敬称略）



# 参考 ロードマップ検討状況（目指す姿 2030年）

CEATEC2024で公開

・ Society 5.0 人が主役となるものづくり



世界に先立ち SDGs目標8 達成モデル構築  
「働きがいも 経済成長も」

生産人口増

豊かな市場形成

高い労働生産性

新たな価値創造

働く人は消費者（納税者）

人の柔軟さと成長性は競争力

「人」の活躍が鍵

自分らしい生き方(働き方) と産業の持続的発展の両立

- 誰もが無理なく働ける社会
- 多様性を認め、全員参加の社会

働く環境の革新

時間・空間の制約が少ない働く環境  
— 人と機械の新たな協調技術 —

誰もが自分らしく、住みたいところに住み  
働きたいところで働く

- 誰もが潜在能力を発揮し、  
自己の理想を実現できる社会

新たな働く環境に対応したマネジメントの革新

労働の質（QoW: Quality of Working）に着目  
— QoWマルチタレントマネジメント —

多様な人材が能力を発揮しやすく、  
「生涯能力向上の期待」を持って働く

# 参考 ロードマップ検討状況（目指す姿 2050年）

CEATEC2024で公開

## ・ beyond Society 5.0 人が主役となる「循環経済型ものづくり」

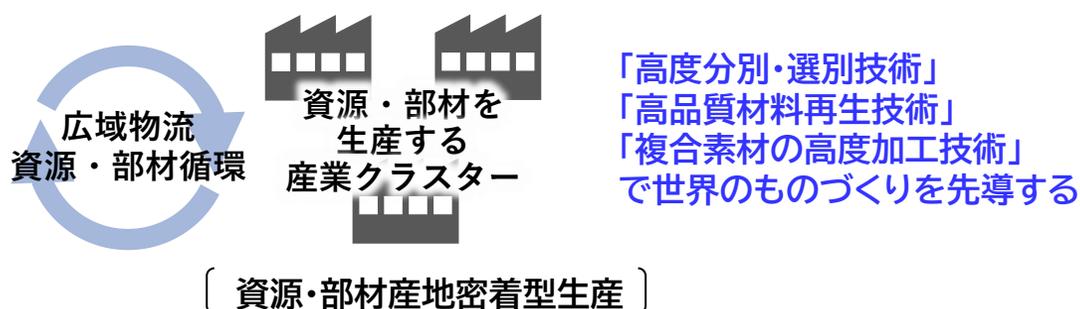
「ことづくりともものづくりの両輪で世界のニーズに応える」

日本型循環経済－「製品・サービス」と「資源・部材」を有機的に循環させるDX革新

### ■グローバル(自立した地域)ニーズへの対応



### ■再生中心の資源・部材の世界的供給網の構築へ



ことづくり by 地域活性化・ものづくり

【人が主役となる「循環経済型ものづくり」へのステップ】(動静脈融合)

### 静脈産業のスマート化と動静脈の連携

- ・ 人機械協調システム導入: 静脈に適したICT/AI/ロボット導入とDX技術導入
- ・ 部材・データ流通のしくみとインセンティブ設計の革新



### 動静脈が融合した 新たな産業モデルの確立

産業横通し  
循環のメカニズム構築



(産業共通倉庫の概念など部材調達革新要)

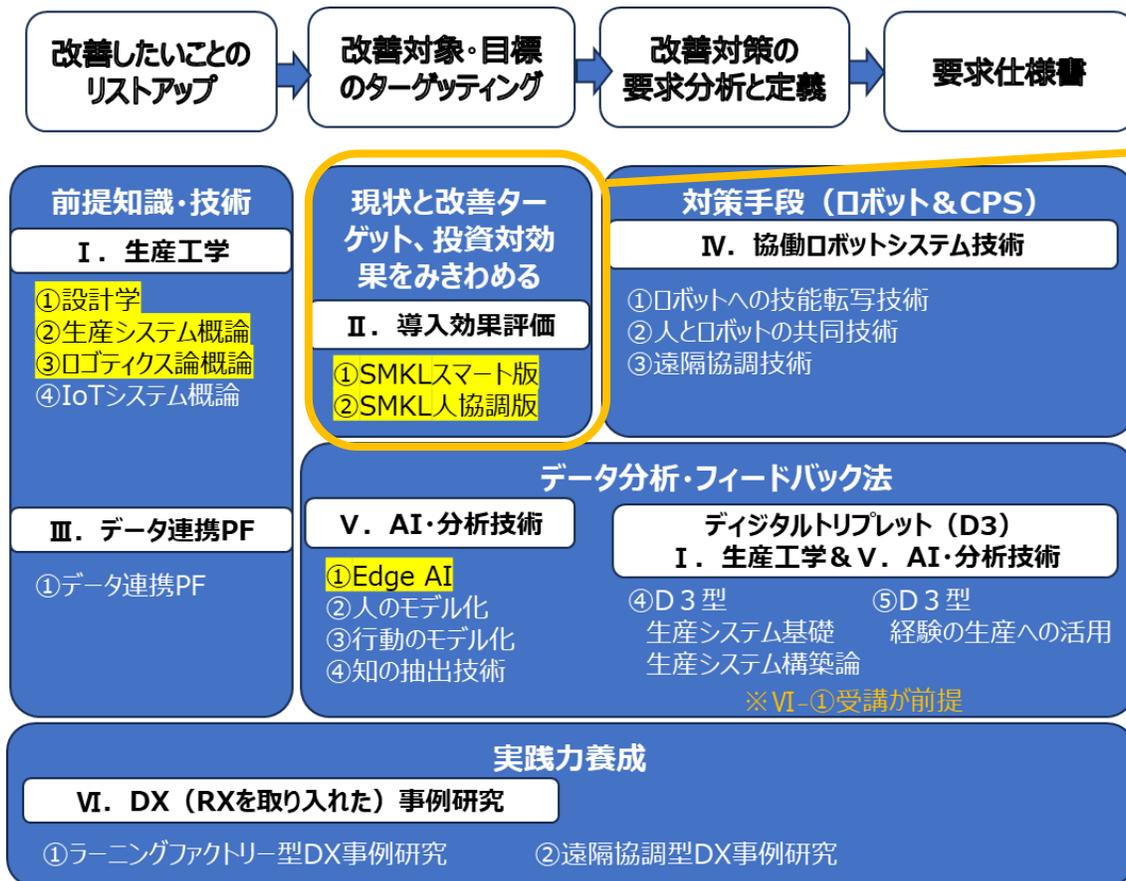
# 2025年度活動計画（②RX推進人材育成講座）

- (1) NEDOプロとして、今年度追加9カリキュラムの作成完了と19講座の開催完遂  
※うめきたサイト本格始動、長崎県開催の実現
- (2) 事業化計画の充実  
※有料講座にしていくためのカリキュラムの体系化、受講補助制度、表彰制度  
支援アプリケーションの充実対策、開催連携先探索他
- (3) 会員企業と連携した先導的にRX推進人材（新キャリア）の育成事例づくりの準備

# 参考 RX推進人材育成講座概要

**NEDO RX推進人材育成講座を新たに下記を担う『RX推進人材』を新たなキャリアととらえ、その人材育成のための講座として位置づけ、2025年度に向け改めて整理し、展開する方針。**

『RX推進人材』とは：様々な課題に直面する中、その課題解決に向けた生産戦略をICT、AI、ロボットを活用した戦術に転換し、具現化を牽引する人材。



**SMKL評価手法：国際標準化 HCMIIにて支援ツール展開準備中**

## ※RX (Robotics Transformation)

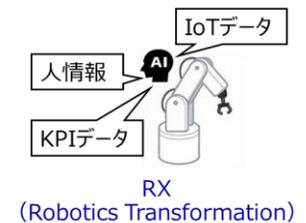
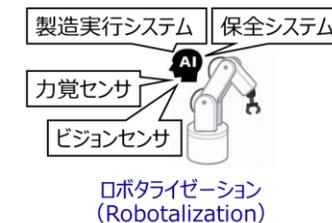
様々なKPI (Key Performance Indicator)やIoTデータ、位置やスキル、会話などといった人の情報とロボットを含む機器や装置を連携・協働させて、作業や業務の改善・改革を行うもの

## c.f. ロボタイゼーション (Robotization)

PLCやプログラムなどのデジタルデータに従って、人の作業 (アナログ) の一部を行うもの

## ・ロボタイゼーション (Robotization)

各種システムやセンサと連動して、人に近い作業を行うもの



# 2025年度活動計画（③QoW標準化/仕組化）

RS部会 QoW統合WG（10社34名、アドバイザー2名）で標準化推進

（1） QoW管理レベルの定義（SQKL）

KPIとQoW評価ポイントの関係性設計と測定法検討  
QoW管理レベルのアセスメント・認定の仕組みを検討

（2） 具体的POC事例づくり

マルチタレントマネジメント手法確立に向けたフィードバック法検討とPOC案策定  
製造現場向けの具体事例づくりに取り組む

（3） 標準化の社会実装に向けた会員との連携構想及び取組みインセンティブを具体化

社会実装に向けたHCMIコンソと会員との連携構想のビジネスモデル化と  
取組みインセンティブ設計、制度設計の検討

# CEATEC2025出展

## • 目的

- HCMIコンソーシアムの周知活動 = 新規会員獲得
- 特定業界に偏らず幅広い潜在顧客との対話 = 活動へのフィードバック
- HCMI関連技術・活動に関する企業PRの場 = 会員メリット

## • 開催概要

会期：2025年10月14日（火）～10月17日（金）10:00～17:00  
 ※2024年度にあった初日のプレミアムタイムは無くなりました

会場：幕張メッセ

## • 出展構成

- 展示：パートナーズ&グローバルパーク内で54㎡
- コンファレンス：10月14日（火）15:00-16:00、201会議室を予約
- トークステージ：10月xx日（○）hh:mm-hh:mm（40分間）
- カオスマップ：有料参加企業のロゴを掲載  
 （ロゴ収集スケジュールは別途）

### 未来のサービス

医療・ヘルスケア	PHR・EHR／介護・見守り／データヘルス
教育	STEAM教育／リカレント教育／人材育成
交通、物流	MAAS／ドローン／自動運転
生産性向上	企業のDX化支援／スタートアップ共創
農業／食	スマート農業／データ活用
防災／レジリエンス	自然災害対策
グリーン社会の形成	カーボンニュートラル／スマートシティ
ユニバーサルサービス	スマートホーム／観光／ワーケーション

### 未来のデジタル基盤

ネットワーク基盤(クラウド／Web3.0／IoTプラットフォーム)

デジタルインフラ/ハードウェア/ソフトウェア(半導体/データセンタ/メタバース/セキュリティなど)

# 6. 2025年度活動計画 (2) 部会活動計画

# ■ 研究開発（RS）部会 活動基本方針と重点計画

## 【活動基本方針】

ロードマップ「2050年beyond Society 5.0 人が主役となる循環経済型ものづくり」の目指す姿に向け、以下の技術確立と社会実装を推進

- 協調型人・機械協働システム
- 遠隔協調型人・機械協働システム
- QoW指標を活用したマルチタレントマネジメントシステム

## 【活動内容】

フィージビリティスタディフェーズから社会実装に向けた実証フェーズに移行

- ① 先導研究推進WG活動推進
  - 実証フィールドでの実証検証を通じて社会実装につなぐための研究開発を推進
  - 先導研究の成果を社会に普及させるための戦略検討と推進
- ② 地域拠点活性化による地域への社会実装促進
  - 各拠点でのシンポジウム、セミナー等イベント開催
  - 地元の企業・団体との対話による地域課題の把握と分析、解決に向けた活動の模索
- ③ ロードマップ「2030年Society 5.0 人が主役となるものづくり」に向けたPhase3アクションプランの明確化

# 2025年度活動スケジュール案

	4月－6月	7月－9月	10月－12月	1月－3月	4月－6月		
<b>全体</b>	△6/11 総会		△1/20 新春セミナー △X/XX プライベートセミナー				
	△10/14-17 CEATEC2025						
	RX推進人材育成講座						
<b>部会</b> (偶数月第3水曜日)	▲4/16 第35回部会	△6/18 第36回部会	△8/20 第37回部会	△10/22 第38回部会	△12/17 第39回部会	△2/18 第40回部会	△4/15 第41回部会
<b>拠点構想 検討WG</b>	拠点整備・イベント支援						
	△X/XX 関西拠点セミナー			△X/XX 北海道拠点セミナー			
<b>先導研究 推進WG</b>	新規 募集	WG活動(部会にて活動状況報告) 各拠点、実証フィールドでの実証検証を実施			継続 申請	新規 募集	
			△10月 CEATECデモ	△1月 新春セミナーデモ			
<b>ロードマップ アクションプラン 検討WG</b>	Phase3アクションプランの見直し、アドバイザー・研究会との意見交換						
	△8/XX アドバイザリーボード						

# ■ ビジネスコネクティング（BC）部会 活動基本方針と重点計画

## 【活動基本方針】

ロードマップ「2050年beyond Society5.0 人が主役となる循環経済社会のものづくり」の目指す姿に向け、以下を推進

- ・ 目指す姿実現に必要な知識・実技体系整理とカリキュラム化推進
- ・ 研究開発部会の研究成果の社会実装支援

## 【活動内容】 セミナー ワークショップ等のイベント実施時期分散化

### ①人材育成

RX推進人材育成講座運営

HCMII独自セミナー企画実施とセミナーや各施策・コンテンツおよびその全体像・マップのアップデート

HCMII全体のロードマップやRX講座なども踏まえた整理

この施策で育てたい人材像の定義、特にHCMII独自施策の部分ではどんな人を育てたいのかの定義

テクノロジー、特に昨今のAI(生成AI)の進歩への追従

### ③プライベートセミナー企画開催 2024年度・2025年度分セミナー企画実施

### ④連携支援

双方向の対話機会(ワークショップ)

CES、ドイツ/ハノーファーメッセ、国内展示会 などの視察報告

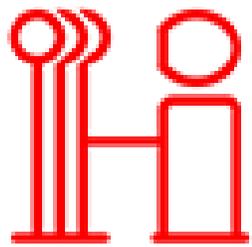
### ⑤活動PR(RS部会と連携)

CEATEC 2025

新春セミナー

# 2025年度活動スケジュール案

スケジュール	7月 - 9月	10月 - 12月	1月 - 3月	4月 - 6月		
部会 (奇数月・ 第3水曜日)	△7/16 第36回部会	△9/17 第37回部会	△11/19 第38回部会	△1/28 第39回部会	△3/18 第40回部会	△5/20 第41回部会
人材育成						
実証支援						
プライベート セミナー						
連携支援						
活動PR						
	△CEATEC (10/14-17)					
	△新春セミナー (1/20)					



# HCMIコンソーシアム

「人」が主役となるものづくり革新推進コンソーシアム  
Consortium for Human-Centric Manufacturing Innovation